

■ 令和2年度 新潟市男女共同参画審議会 第5回 策定部会

日時：平成2年10月29日（木）15時～17時

会場：新潟市役所分館6階 1-601会議室

①計画案について

（事務局）

- ・計画案の修正箇所を説明

（鈴木委員）

・防災における男女共同参画のところで「どちらかの性別に過度な負担」というのは、男性にはどういう負担がかかるのか。女性への配慮というところ入れてほしい。この行動計画は、男女間の格差をなくすために、圧倒的に女性への配慮が足りないという視点で作っている。

（部会長）

・災害をより早く乗り切るためには、男女共同参画の視点が必要。災害時に、仕事がなくなって経済的にどうしようと悩み、自殺をする方とか病気になる方は圧倒的に男性が多いことを考えると、男性もデメリットを被る。もちろん女性もいろいろなデメリットを被るので、男女共同参画の視点があると男性も女性もよりよく生きられるとまとめたらいと思う。

（鈴木委員）

・そう書いてしまうと、せっかくジェンダーの問題と言いながら、男性が仕事をして稼ぐという性別役割分担意識を前提にしてしまうことが問題になるのではないか。

（井上委員）

・「男女のニーズの違い」というところを一旦「女性のニーズに配慮する」と改め、また次に「どちらかの性別に過度な負担が生じることがないように」とつなげれば、女性の視点にも配慮した男女共同参画行動計画となるのでは。

（鈴木委員）

・政治分野における男女共同参画の推進に関する法律も整備され、女性が政治にかかわっていくということを、ぜひ男女共同参画行動計画に入れるべきなのではないか。審議会ではそういう分野は身近に感じないという意見も出たりして残念だったが、政治分野に自分たちも関わっていくということについて意識を高めることもアルザの役割、男女共同参画課の役割だと思う。女性のエンパワーメントの推進のところに「政治分野への女性参画を進めるために、情報及び学習機会を提供します」と入れてもらいたい。

(事務局)

・ここもご意見を伺いたい。前回の審議会の中では、「政治」という言葉を行政が使うということについては、若干ネガティブなご意見もあった。政治というストレートな言葉ではなく、別の言葉に置き換えて表現したらどうかという意見などもまとめてこのように表現した。

・アルザの講座については女性のエンパワーメント関係の講座は必ず開催するので、その中のテーマの一つとさせていただきたい。

(鈴木委員)

・増やしましょうというキャンペーン的なことではなくて、このような法律ができたことや、政治の世界に女性がいるといないとではどう違うかということを知ってもらいたい。

(田中委員)

・政治の世界に女性が入るとどのように変わるのかなどを知る機会をつくるのがこの計画の中にあってもよいのではないか。

(部会長)

・女性の課題解決能力や政治を解説するような講座は東京などでは人気があるようだ。講座の開催が議員の増加にはつながらないかもしれないが、受講すると見える世界が変わってくる。そうすると、政策に対する提言や、パブリックコメントへの意見提出などにつながる。ただ、計画に盛り込むとすると少し大変かもしれないが、言葉を工夫してほしい。

(事務局)

・目標2の女性のエンパワーメントの推進に記載すると、どうしても女性議員を育てるかのようところに結びつく印象になってしまう。女性議員が少ないことによる問題を知らせていくという趣旨のものに焦点を当てるのであれば、例えば目標1の(2)の社会制度・慣行等の見直しというところで、イのジェンダー統計の活用、周知とか、ウの社会制度や慣行の問題点の情報提供というほうがよいのでは。

(鈴木委員)

・その問題意識でよい。

(事務局)

・指標についてご意見を伺いたい。市民の性別役割分担意識に関するもので、「男は仕事、女は家庭という考え方を否定する人の割合」という表記について、基礎調査の設問に合わせて「反対する」とどちらがよいかご意見をいただきたい。

(井上委員)

・「反対する人」のほうがわかりやすい気がする。

(部会長)

・「否定」だとその考え方が悪いという感じになってしまうという印象が強い。反対という言葉を使う方法もあるのでは。

③計画の改定のポイントについて

(事務局)

・今後、公表の際の要旨となる「改定のポイント」について説明